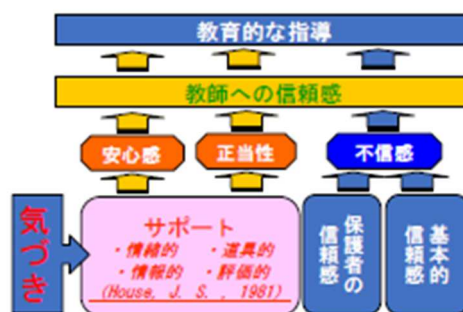


学級経営・生徒指導研修会報告書

研修名	「学級経営・生徒指導研修会」
日時	2021年2月5日(金) 15:00～16:45
研修の目的	学級内の支持的風土を醸成し、教師への信頼感を高める学級経営のポイントや生徒指導の在り方について研修を深める。
テーマ	人間関係づくりは信頼関係づくり
講師名	栗原慎二先生 (広島大学大学院 教授、公益財団法人 学校教員開発研究所 代表理事)
会場・場所	Zoomによるオンライン研修
研修内容	<p>学級経営と生徒指導の基本</p> <p>①生徒指導は指導より支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導と支援の関係図をもとに、様々な事例から教師の教育的な指導よりも信頼関係が大切 <p>②それぞれの学級の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支持的風土が出来ない。 ・学級にまとまりがない。 ・不登校・不登校傾向が多い。 <p>※実態、事実の後ろにあるものを掴む。…個人要因と環境要因を理解する。</p> <p>③演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○受講者同士(ペアになって)指導される場面と支援される場面のロールプレイングを行い。体感する。 <p>④人間関係づくりは信頼関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ目的を持った集団へ…まとまり・絆、士気、思いやり、責任感、規範意識 <p>⑤伝わる次元の言葉で語る。</p> <p>⑥コミュニケーションはまず理解から</p>
成果／活用策	<p>○「生徒指導」＝「生徒支援」である考えを多くの先生方にもってほしい。(ペアやグループで対応等を実感、話し合う研修は有効)</p> <p>○何も語らない生徒の対応に困ったことがあったが、ペアワークを通して「子どもの感情やストーリーを語りかけること」は生徒の気持ちに寄り添い、信頼関係の構築に繋がるのだと感じた。</p> <p>○何も言わない、口を開かない生徒への対応の仕方、言葉のかけ方等、実践して難しいと感じましたがとても勉強になりました。</p> <p>○正に、今私の困っていることへのキーとなる考え方に触れられたと思います。明日から学校、家庭での声かけの方法を実践したいと思います。</p> <p>○習ったことが当てはまる生徒には適応していきたい。</p> <p>○沖縄県の潜在的な問題や生徒の持っている環境の根っこに気づく事など、新たな事に気づくことができた。サポートの仕方にも情緒的、道具的など数多くあることも学べ、今後実践していけるようにしていきたいと思った。</p> <p>○具体的な指導よりも支援をおこない、安心感と正当性を感じさせることから始めていくことがとても重要であることを理解できたことが成果です。</p> <p>○「見えない心に触れて生徒へのアプローチする！！」きちんとさせようという「学校が作る生徒像」にこだわらず、生徒の心に近い関わりをします。</p> <p>○「重要なのは指導ではなく支援」というフレーズに共感しました。生徒との関わる視点(重要)として活用していきたい。</p> <p>○子ども理解、コミュニケーション、管理職として職員との関わり方のヒントにもなった。</p> <p>○事例の不登校気味の男の子への対応が、本校の保健室登校の子への対応に直ぐに活用できる内容でとても参考になり実践したいと思います。</p>

指導と支援の関係



- できる事を要求し、こまめなフィードバックで自信をつけさせていくというやり方は自分もやっているの、正しかったんだと安心しました。
- 学級を集団から集合化するためには、学校職員から集合化する必要があると改めて強く感じさせられました。まずは職員同士の理解、共有が必要であり、今日おこなった幾つかの事例、自分自身の課題等ペアでのコミュニケーショントレーニングは、校内研等で活用できる実践だと思いました。
- 問題背景をアセスメントする大切さを知った。
- 生徒とのコミュニケーションの取り方、信頼関係の築き方などとても参考になった。問題の背景や見えない心などを理解する視点を大切にしていきたい。
- 生徒指導の考え方が変わりました。困っている学級担任にとっても変化する良いチャンスだったと思います。
- 教師側の理解と様々なケースに対してのヒントがありとても良かったです。現在、不登校になっている生徒や登校を渋っている生徒への対応に早速活用したいと思います。
- 生徒の実態をしっかり把握して、寄り添うことが大切であると改めて実感しました。
- やはり相手の立場に立って（寄り添う）ことの大切さを一番に正しいことが全て相手に良い手立てでもないということが確認できました。
- 私も含めて、行動でなく、心を見ることができると生徒のエネルギーが高まり、良い行動をすることができると思った。
- 教師がすべきことは指導ではなく支援ということ。支援することで信頼関係が生まれること、信頼がないと子どもへは響かないということを改めて感じました。まずは理解し、支援することから始めたいです。
- 行動を見るのではなく、生徒の心を見る。また、その生徒の背景などくみ取って言葉かけをしていく。
- 生徒への「気づき」と「変化」を感じる大切さを知った。（授業や部活動などで活用させたい。生徒の行動だけではなく、気持ちに気づけるように関わってきたい。）
- 指導ではなく、支援が今の生徒たちには必要である。今の本校の課題です。授業（学習）に向かえてない生徒に対して学校全体、教科としても研究（話し合い）していきたい。
- 生徒によって課題は様々だとは思いますが、指導を行うのではなく課題を解決するための支援を考えていきたい。
- 出来るようになった時こそ関わり方や支援を続けることが大切であるという所は、分かっているも他の子に気を取られ後回しになりがちである。気をつけていきたいと強く感じた。
- 生徒と信頼関係を築く方法や手法を学びました。語り方、接し方など具体的なお話だったので、早速実践してみます。
- 学級にいる大人しい子の「つぶやき」を聞き逃さないように、その子の思いを想像することを意識していきたい。
- 正論だったとしても信頼関係がなければ聞かない、信頼関係を築いていくことが何より大切だと再確認しました。
- 「見えない心の動き」をどれだけ見れるか、教師目線の「こうやってほしい」は子ども達の「こうしたい」とは違い一致しない。子ども達の感情、踏ん張りを理解する。
- 教師への信頼感があってこそその教育的な指導が効果を持つ、そのためには「気づき」その子を理解しサポートする。

自尊感情の形成

・自尊感情とは
「愛されているという感情」
「自己概念に含まれる情報」の評価に基づく感情



感想／要望

- グループでの会話があることで、研修の振り返りだけでなくアウトプットすることで実感が伴う。「よい事例（グループ）」のやりとりをみんなで見合うことができれば、さらに効果的だと感じた。また、相手に掛けた言葉やもらった言葉で参考になった言葉をチャット機能を使ってかいていくと研修会参加者の学びが大きくなると感じた。
- 指導が生徒に合わないのはなぜか、支援が足りないから。納得がたくさんある研修でした。実際にペア、グループワークで意見を交わし興味深い研修であった。やる気がない自己肯定感が低い生徒など、様々な要因をもった生徒がいるので役立つと思った。ありがとうございました。
- どれだけ正当なことを伝えても信頼関係がないと受入れてもらえないということに納得させられました。
- 自信を育てるために「できることを要求する」、できたことを「褒める」を大事にしたいと思います。その他たくさんを学ばせていただきました。
- 子どもの行動で判断することなく、心の変化に気づいて認めてあげること、その個なりの成長を認めることなど、沢山のことを学びました。スモールステップでできたことを沢山褒めてあげたいです。
- 今回の研修を受けて「まず指導より支援」という言葉が印象に残っています。なかなか自分の指導に従ってくれない場面が多々ありますが、まずは相手の事を理解し、受け入れる事が大切であり、話しを聞いてあげることが重要だと気づかされました。
- 「できることを要求する」というのは意外と見落としていたと思います。できるようになると、ついついステップアップを望みがちでしたが、今回の研修でとても勉強になりました。今後の学級経営に活かしていきたいと思います。
- いろんな場面を2人ペアでロールプレイしてみて、生徒の気持ち少し分かった気がする。ふり返りや他校の先生方の感想が聞けてとても良かった。オンライン研修でも今まで通りの研修のように学びがたくさんあり、不便は感じなかった。
- 指導より支援が求められること。とても強く印象に残った。
- 熱い心で、礼儀正しく、いいものはいい、いいからやれ！！的な指導を早くやめましょう、みなさん・・・と思いました。関わりを作る場が学校ならそこでしかできない関わりをみつけて生徒と楽しみたいです。
- 具体的（経験値）な事例が多く、本校の生徒にあてはまる事例を重ね合わせて研修する事ができました。より理論的に学びたいと思いました。次の研修も楽しみです。ぜひ時間を調整して参加したいです。
- 子どもの見えない心を読み取り、言語コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを意識して話す重要性を学ぶことができました。もっと話を聴いてみたいです。
- 想像力をつかって指導する！
- コロナ禍の中で、児童生徒にとっての学校の存在意義を深く考える機会になりました。そして、児童生徒の成長の過程を指導から「支援」にシフトチェンジするには自分たち教職員が日頃から「行動ではなく見えない心の動きをどうみていくか」が大事だと今回の研修で痛感させられました。
- 大変参考になる研修でした。指導を伝えるための信頼関係をつくっていけるように生徒理解の部分をもっと意識していきたい。
- 生徒との信頼関係が大切だということ、その関係を築くためには、支援、サポート、気づきの大切さを気づかされました。
- 普段、グチを言わない隣の先生のグチを聞いて、これから一緒に考えていけたらなと思った。
- 演習は、先生方一人一人が心あたりがあり、実感したでしょう。先生が変われば生徒も変わる。
- 栗原先生のような先生と出逢えた生徒は幸せだと思った。私も栗原先生のような先生を目指したい。
- できない事ではなくてできることを要求する→今まで自然と目標を高くしてしまっていて、できない事を要求してしまっていたので、とても参考になりました。（生徒たちに目的・目標を持たして、チームとしての自覚を持たしていく。）
- 教師の「気づき」が何よりも重要である。あたり前に今まで先輩たちから言われて分かってはいたものの自分自身が少しづつ忘れていたのではないかと思います。

- 根っこの部分に働きかけられる教師という言葉や生徒と一緒にいる事を教師が喜ぶ、楽しむ、面白がるという言葉が印象に残った。今後、特に意識して生徒と接していきたい。
- 生徒理解のための教員側の姿勢など、多くを学ぶことができました。特にグチをこぼすということは「頑張っていること」、説教ではなく、そのグチの奥の心を読みとることが大切だということは印象に残っています。
- 正論が生徒に入るか、入らないか、やはり信頼関係を築く（生徒間、生徒・教師間）ことが学級経営の基本だと改めて感じました。
- 子ども達にとって、学校が改めて大切な場所であるということを確認できた。そこで働く教師として、子ども達に支援をおこない、環境を整えていきたいと思いました。
- 生徒の见えない心を想像して接したり、声をかけるというのが印象的でした。演習では生徒役になったり、教師役になって客観的に自分の生徒への対応を知る事が出来ました。
- 「普段の生徒指導でやりがちなことが生徒との信頼関係を損なうことに繋がる」という点が共感できた。
- アウトプットのある研修は効果的です。でも時間が掛かってしまうのが難点だと思います。今回はもっと研修を受けたいと思う内容でした。事前のアンケートがあり、実際の場面を想定した研修があるとよいと思いました。その際は、講師から模範対応を示していただけると更に良いと感じました。
- 生徒指導について、三機能を活かした研修を受けたいです。行動だけではなく、その背景についての指導法も知りたいです。
- 評価の仕方や方法など。
- 今回の内容について（理論など）もっと深く知れば学級経営や指導に生かせると思う。
- 今回の研修の内容をより広く時間を設定して学ぶ機会があると良いです。
- 離島校として、今回も参加できて大変学びの多い研修でした。次年度もぜひ継続してもらえると感謝です。
- このような研修を増やしてください。離島特有の生徒指導や学級づくりにもスポットをあててほしい。
- Zoomによる研修のおかげで、今後、たくさんの小中学校の校内研として活用できると実感しました。いくつかの学校が共に同じ研修をすることで、同地区内の教師同士の資質向上、共通理解、共有化につながると思うので、今後もこのような研修を続けてほしい。（年間を通しての研修計画があれば、校内研として研修計画に位置付けがしやすいかと思います。）
- 採用試験受講者向けのネット配信講座も実施してほしい。
- 栗原先生の生徒指導、学級経営を初任研やこれからの若い先生達に必修してほしい。
- ズームでの研修でもOKなので、どんどん企画してほしい。
- 経験が浅いので、研修に関してよくは分からないのですが、このような研修があれば出来るだけ参加したいと思いました。
- 紹介のあった「アセス」の読み取り、学級経営の講座はぜひ受講したい。

アンケートの結果

目標参加者数	50人	参加者	53人	参加率 106% 参加率＝目標参加数÷参加数
アンケート回収数	48件	回収率	81%	回収率＝回収数÷参加者数（%）

アンケート項目	評価4		評価3	
	1. 研修の時間について	適切であった	39人(90%)	まあまあ適切であった
2. 興味を引く研修内容か	非常に良かった	39人(90%)	良かった	4人(9.3%)
3. 今後の教育活動に活かそうか	非常に活かそう	35人(81.4%)	まあまあ活かそう	8人(18.6%)

